

平成27年度事業計画書

公益財団法人 北九州活性化協議会

目次

I 概況	……………P 4
II 公益目的事業	
1 「もったいない」を未来に引き継ぐ事業	……………P 4
1) 「もったいない総研」の再構築事業	
2) 環境未来都市構築支援事業	
2 産業人材を育成する事業	……………P 5
1) 北九州地域産業人材育成フォーラム事業	
(1) 高度人材育成プログラムの企画、運営	
(2) 社会人育成プログラムの企画、運営	
(3) 青少年育成プログラム事業の企画、運営	
(4) 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備	
3 次世代を担う人材を育成する事業	……………P 7
1) 「北九州の企業人による小学校応援団」事業	
(1) 支援対象校の拡大	
(2) 支援事業サイトの新設	
(3) 支援事業の継続実施	
(4) 企業従業員のPTA活動参加促進	
(5) 企業等の支援情報および講師情報の蓄積	
(6) 応援団事業の広報、プロモーション事業の実施	
(7) 支援体制の整備	
4 都市格（文化力・教育力）を向上する事業	……………P 9
1) 「1000人の夢寄金」事業	
(1) 「1000人の夢寄金」募金事業	
(2) 「1000人の夢寄金」助成事業	
(3) 広報・プロモーション事業の実施	
2) その他関連事業	
(1) 北九州ミュージックプロムナードの支援	
5 まちづくり推進事業	……………P 10
1) まちづくり事業	
(1) まちづくり事業の開発、推進事業	
(2) 情報受発信の強化	

2) 地域づくりネットワークの推進

- (1) 北九州地域経済団体連携フォーラム事業の実施
- (2) 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画
- (3) 地域づくりネットワーク福岡県協議会への参画

6 北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業 P 1 1

- 1) 教育普及に関する事業の企画、運営
- 2) 調査研究に関する事業の企画、運営
- 3) 企画展示に関する事業の企画、運営
- 4) 映像・図書等収集及び公開に関する業務の企画、運営

Ⅲ 法人運営業務 P 1 4

1 会員募集と会員サービスの向上

- 1) 会員募集の強化
- 2) 会員サービスの向上

2 寄付事業の検討

3 地域連携促進事業

- 1) 「スポーツ振興チケット」事業の継続実施

4 組織運営体制の強化

- 1) 運営体制の整備

5 会議等の実施

I 概況

緩やかな回復基調へ転換した日本経済は、円安に加え原油安の進行も奏功し、輸出産業を中心として企業収益の好転を支えに有効求人倍率も好転してきた。

政府は、経済の好循環を確かなものとし、地方にアベノミクスの成果を広く行き渡らせるとして、地方での若者雇用の創出を図る等の地方創生に向けた総合戦略と人口の長期ビジョンをまとめた。

また、産業界においては、中国をはじめとした発展途上国における比較優位の低下と円安による国内生産の比較優位の向上、そして開発型生産拠点の形成等の経済環境の新しい変化を背景に製造業の国内生産回帰の流れが大きくなってきている。

北九州地域は、こうした産業経済の流れを踏まえながら、グリーンアジア国際戦略総合特区の推進や新成長戦略による産業経済の活性と合わせ、九州の産業革命遺産群の世界遺産認定とその決定を受けた新しい都市ブランド創りが期待される場所である。

このように地方創生が叫ばれる中、北九州市においても地域社会の中から新しい産業や雇用機会を生み出そうとする動きも活発化してきた。産学官民の連携軸という組織的特性と25年に亘る事業実績を踏まえ、主要事業の事業化に向けて地域環境づくりを進めて来たKPECにも、改めて北九州市の活性化を推進していく中間管理機能（DO-TANK）としての役割が期待されている。

こうした環境の転換を踏まえ、KPECの長年の懸案であった財務体質の改善について、H26年度決算において、概ねの結果が出せる見通しである。

平成27年度のKPEC事業は、「北九州地域産業人材育成フォーラム事業」、「北九州の企業人による小学校応援団事業」、「1000人の夢寄金事業」を中心に、事業の拡充と産学官連携による運営の仕組み創りを推進する。

また、地方創生戦略等の動向や世界遺産認定等の地域環境を踏まえ、「もったいない総研事業」の再検討も含めて、新しい街づくり事業の方向を検討する。

第3期5年間の受託を決定した指定管理事業である北九州イノベーションギャラリー（KIGS）については、提案した計画事業を実施すると共に、産業人材育成事業等の事業との連携も図りながら設置目的の実現を目指す。

また、こうした事業の拡充に対応した運営体制の整備と、経営の健全化のための財務体質の改善等についても並行して進める。

平成27年度の事業計画は以下のとおりである。

II 公益目的事業

1 「もったいない」を未来に引き継ぐ事業

KPEC10周年を期して創設、運営してきた「もったいない総研」事業については、H25年度をもってこれまでの事業活動を総括し、事業の運営理念も含めて、今後の進め方について「もったいない総研事業検討会」を設置し検討を行った。

社会の環境変化等を踏まえ、KPECならではの事業の進め方と時代に対応した新しい観点をもって今年度も引き続き検討を行う。

1) 「もったいない総研」の再構築事業

昨年度実施した「もったいない総研事業検討会」において、もったいない総研の事業コンセプトを、「日本独特の生活思想である『もったいない』の追求」と言う事とした。これを踏まえて、「もったいない精神」の醸成と合わせて、環境(産業経済・社会生活)や産業文化遺産の保全等までを含む広い範囲を想定し、次世代に継承していくべき事業の企画、研究を行う。

本年度は、「KPEC事業開発研究会」(※10P:『まちづくり事業』参照)に於いて、KPEC事業として持続性を持った地域活性化事業の検討の中で方向性を確認する。

2) 環境未来都市構築支援事業

(1) 「エコっパー」の普及にかかる企画・研究の実施

「もったいない総研」が企画開発した「北九州紙エコっパー」は、循環型社会づくりの先導的取り組みとしての評価が高まっており、一定レベルの販売実績を継続している。

本年度は、改めて北九州市の資源循環型社会への取り込み等と連携して、エコっパー事業の見える化を図ると共に、エコっパーのブランドアップ及び製品普及のための仕組みづくりについて検討する。

2 産業人材を育成する事業

1) 北九州産業人材育成フォーラム事業

北九州地域の中堅・中小企業の経営力強化と雇用環境の改善を図るとともに産学協働による産業人材の育成を目的として、「北九州地域産業人材育成フォーラム」を編成し、産業人材育成事業の開発、実施とCSV(共通価値の創造)を踏まえた産業人材育成のための地域システムの構築を行う。

(1) 高度人材育成プログラムの企画、運営

地域工学系大学の新卒大学生を対象にした「地域連携型インターンシップ事業」の拡充を図ると共に、「インターンシップ研究プロジェクト」を編成しインターンシップの実践的活用研究と地域システムの構築を推進する。

① 地域連携型インターンシップ事業の拡充、実施

地域4工学系大学・北九州高専と中堅・中小企業の自立型連携によるインターンシップ事業を拡充する。(目標:参加校;5校、参加企業120社、参加学生;250人)

また、実践型インターンシップ事業の開発等、インターンシップの実践的活用に向けた事業企画、研究を行い、「地域連携型インターンシップ・ビジネスモデル」の拡充を図る。

② 「地域連携型インターンシップ」運営環境の開発とプロモーションの実施

地域連携型インターンシップ事業の拡充のため、「運営マニュアルCD-ROM」の作成・配布、「学生のための北九州企業発見ツアー」を企画実施すると共に、「インターンシップ実践セミナー」を企画、開催し、事業の拡充のための環境づくりを推進する。

(2) 社会人育成プログラムの企画、運営

「社会人プログラム開発プロジェクト」を編成し、中堅・中小企業の専門技術人材及び経営・管理人材の育成を目的として、地域大学の制度・環境を活用した「社会人向け人材育成プログラム」の開発及び事業化を実施する。

① 中堅・中小企業の中核専門人材育成に向けた環境開発

中堅・中小企業の技術人材の育成を目的として、連携大学の社会人向け教育制度及び事業等の活用促進及びこれら環境を活用したリカレント教育システムの開発と事業化のための環境づくりを行う。

i) 北九州ドクターチャレンジプログラム事業の再開 (改)

九州工業大学の「社会人プログラム」を活用した中小企業の中核専門技術者の博士号取得のための環境開発を再開する。

ii) 北九州テクニカルカレッジ事業の事業化研究の実施 (継)

H26年度の試行実績を踏まえて、テクニカルカレッジ事業の事業化を進めるため実践的研究を引き続き行う。また、連携大学・高専における社会人教育プログラムの集約を行い、地域における活用促進方策を検討する。

② 中堅・中小企業の経営人材育成に向けた環境開発

北九州市立大学大学院マネジメント研究科等と連携して、地域中小企業の「経営継承」をテーマとして、経営・管理者育成のための事業企画と環境づくりを行う。

i) 「MBAサテライトフォーラム&連携講座」の企画、実施

中堅・中小企業の経営・管理者の経営力強化とスキルの向上を目的に、北九州市立大学大学院マネジメント研究科と連携して「経営継承」をテーマにした公開セミナー実施する。また、中小企業基盤整備機構中小企業大学校直方校等と連携して「経営者のためのビジネス講座」を実施する。

ii) MBAホルダーによる白熱講座の企画・開発、実施

H26年度のモデル授業の結果を踏まえて、北九州市立大学MBAホルダー(企業経営者)による大学生を対象とした実践型キャリア形成講座の実施計画を編成する。

iii) 中小企業経営者のための車座塾の企画・開発、実施

中小企業の中心的な経営課題である「経営継承」について学ぶ、実践的な経営研究講座を中小企業経営・管理者を対象に企画する。

(3) 青少年育成プログラム事業の企画、運営

「青少年プログラム研究プロジェクト」を編成し、産学官連携による早期工学教育(ものづくり教育・キャリア教育・理数・科学リテラシー向上教育)の環境開発を行う。

① 早期工学教育の実施環境の開発

i) 早期工学教育の実施状況調査の実施

北九州市における早期工学教育実施状況調査を、市内小中学校、地域企業及び先進地を対象に行う。

ii) 早期工学教育関連事業調査及び活用環境の構築

北九州市における教育関連機関等が実施する早期工学教育関連事業を調査し、「北九州市における早期工学教育関連事業総覧(仮称)」として体系的に編集し、活用の環境づくりを行う。

iii) ものづくり教育モデルカリキュラムの開発、制作の環境づくり

北九州の産業を支える各種技術をコンテンツにしたものづくり教育教材及びカリキュラムの作成と、これを活用した産学官連携による早期工学教育の実施環境づくりに向けた研究を行う。

② 藤田哲也博士をコンテンツにした早期工学教育の環境づくり

竜巻等の藤田哲也博士の研究及び生き方をテーマにした小学生の学習教材の開発等を行うと共に、H26年度「藤田哲也展」を実施した北九州イノベーションギャラリー及び藤田哲也記念会と連携して関係資料等を収集・整理を行う。

(4) 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備

フォーラム事業の実施基盤である企業会員の募集と組織化を進めると共に、地域の経済団体及び業界組織等との連携を促進し、フォーラム事業の推進基盤の整備を行う。また、政府の地方創生戦略の研究を行い、北九州市等の関係機関等の指導を得て、フォーラム事業の拡充に向けた環境づくりを行う。

① 産業人材育成フォーラム企業会員の募集と組織化の実施

フォーラム事業を協働する地域企業の会員登録を進め、企業ニーズを踏まえたフォーラム事業を行うための環境整備を行う。また、フォーラム事業の地域化を促進し、事業運営の組織基盤を強化するため、地域の経済団体・業界組織等との連携を促進する。

② 地方創生戦略を踏まえたフォーラム事業の展開

政府の地方創生戦略等の制度環境を研究し、北九州市等の関係機関等の指導を得て、フォーラム事業の地域システム化と事業の拡充に向けた環境づくりを行う。

③ 「産業人材育成セミナー&産学交流会」の開催

フォーラム事業の地域への周知と参画促進を図るためのインセンティブセミナーを企画、開催する。また合せて、大学関係者と企業経営者の顔の見える交流を促進するための産学交流会を企画、開催する。

④ 北九州地域企業学内説明会の実施

地場中堅・中小企業への就職機会の創出を目的に「産業人材育成フォーラム」関係企業を対象にした大学内企業説明会を連携大学と協働で企画・開催する。

⑤ 「北九州産業人材育成フォーラム」ホームページの運用

産業人材育成フォーラムの関連情報及び産業人材育成に関する関係機関の情報等を集約・発信するため、フォーラムの専用ホームページを設置し、産業人材関連情報のソリューション機能の構築を図る。

3 次世代を担う人材を育成する事業

1) 「北九州の企業人による小学校応援団」事業の推進

「北九州市立小学校への教育支援に関する協定書（平成25年4月1日）」に基づき、市教育委員会と連携し、小学校校長会、PTA協議会等と協働して、北九州地域の有志企業が参加する「北九州の企業人による小学校応援団」事業を企画・実施する。

(1) 支援対象校の拡大

年次目標に基づき、支援対象校を40校（26年度）から70校に拡大する。

[年次目標] 27年度 70校、28年度 100校、29年度 全130校

(2) 支援事業活用サイトの新設

支援対象校の拡大計画を推進するため、支援事業活用サイトを新設する。

支援対象校の拡大に伴い、膨大な情報量が想定されるため、サイトを通じ情報の検索、入力を行う方式に切り替えることにより、各学校と小学校応援団事務局が最新情報を常に共有し、支援事業の活用とその運営管理を円滑・効率的に行えるようにする。

なお、27年度はサイトの試行運用期間とし、その結果を検証して必要な改善を行い、28年度から本格運用をめざす。

(3) 支援事業の継続実施

支援対象校の児童、教職員、保護者を対象とする支援事業（講師派遣及び見学受け入れ）を実施するとともに、市教育センターの10年次教諭体験研修（夏休み3日間）を支援する。

(4) 企業従業員のPTA活動参加促進

① 企業従業員のPTA活動参加・役員就任の促進を図るため、PTA協議会、小学校校長会、教育委員会と連携して、小学校応援団参加企業に対し「PTAの日」、「学校開放週間」及び「明日の子どもを育てるフェスティバル」への従業員の参加協力を要請する。

② 小学校応援団参加企業へ、従業員の親学講座受講の働きかけを行う。

(5) 企業等の支援情報リスト（支援メニュー）及び講師情報の蓄積

① 学校の支援ニーズに対応するため、企業等の協力を得て、講師派遣、見学受け入れ等の支援情報リストを作成・蓄積する。

② 経営者や専門家など講師の人材情報の収集に取り組む。

(6) 応援団事業の広報、プロモーションの推進

小学校応援団の取り組みに対する企業や市民団体、教育関係者等の理解を深め、協力の輪を広げるため、リーフレットやKPECのホームページを活用し広報活動を行うとともに、活動の実績やトピックを報道機関に情報提供する。

(7) 支援体制の整備

① 参加企業等の増強

前年度に引き続き、小学校応援団参加企業等の増強に取り組む。

② 学校担当コーディネーターによる支援事業活用サポート

支援対象校が企業の支援を的確に活用できるよう、学校担当コーディネーター10人（シニアネット北九州及び夢追いバンクの協力を得て26年度に配置）による必要な調整・サポート業務を行う。

③ 三者調整会議の定期的開催

支援事業の円滑な推進を図るため、北九州市立小学校の教育支援に関する協定書（平成25年4月1日締結）に基づき、教育委員会及び小学校応援団との三者調整会議を定期的で開催する。

4 都市格（文化力・教育力）を向上する事業

1) 「1000人の夢寄金」事業

北九州市の都市格向上を目的として、教育および文化分野における市民活動への助成を行う「1000人の夢寄金」事業について、体制整備と認知度の向上を図る。

(1) 「1000人の夢寄金」募金事業

寄付金推進メンバーの見直しおよび組織強化を図り、これを基盤にした1口3000円の寄付金募集の拡大を図る。

① 寄付募集体制の確立

i) 1口3000円の基本寄付募集体制を確立する。

夢寄金の寄付基盤となる募集方法及び募集メンバーを見直し、「1000人委員会」の組織化を進め、募金体制の整備を図る。

ii) 遺贈、香典返し、チャリティー事業など寄付金受入れ方法の多様化を研究し、KPECの寄付事業と連携した指定寄付の拡大を図る。

iii) 年1回のチャリティーゴルフコンペ継続開催。

② 寄付金受け入れ体制の構築

i) 寄付金の管理体制を整備し、寄付者サービスの向上を図る。

ii) 寄付者に対する礼状を定期的に発送する。(毎月分、年度分5月)

(2) 「1000人の夢寄金」助成事業

「1000人の夢寄金」の趣旨を踏まえて助成先の募集及び選定方法の研究を行い、文化と教育分野で活躍する将来性のある団体及び個人に対する助成事業の拡充を図る。

① 助成事業の募集

「1000人の夢寄金」の趣旨を踏まえた、将来性のある団体及び個人の応募を増加させるため、助成事業の拡充を図る。(平成26年度より年1回7月実施)

② 助成先の選定

「1000人の夢寄金」の趣旨を踏まえ、「1000人の夢寄金・審査委員会」による公平、公正、公明性ある助成先の選定を行う。

(3) 広報・プロモーション事業の実施

「1000人の夢寄金」の周知を図り、寄付金の拡充と事業運営への志ある市民参加を促進すると共に、助成対象関係者の認知を高めるための広報等を実施する。

① ホームページ及びFacebookの運営

ホームページおよびFacebookにて、寄付者情報、助成先情報、その他活動情報等をタイムリーに発信する。メーリングリストによる事務の効率化を同時に図る。

② 「1000人の夢寄金」事業報告書の作成

毎年5月に前年度事業報告書を作成し全寄付者宛て発送する。助成先の団体・個人を認知させると共に新たな寄付者・助成先を開拓する。(年1回)

2) その他関連事業

(1) 北九州ミュージックプロムナードの支援

平成8年にKPECの提唱で企画、開催され、北九州市民参加交流型の音楽フェスティバルとして定着している「北九州ミュージックプロムナード実行委員会」に参画し、運営を支援する。

5 まちづくり推進事業

1) まちづくり事業

(1) まちづくり事業の開発、推進事業

公益財団法人としての組織的環境を活用し、産学官連携による地域づくりの視点を踏まえた地域活性化事業の研究、開発を行い、事業化を検討する。

① 北九州地域活性化事業の研究・開発

「KPEC事業開発研究会」を設置し、産学官民の連携軸としてのKPECの組織的特徴と機能を活用した地域活性化事業の研究・開発を行う。

本年度は、プロジェクトを編成して「もったいない総研」の再構築についての検討を行う。

② ABLEサロンの運営、企画開催

会員企業及び地域活性化に取り組む市民等と、地域課題や地域政策などをともに学び、相互交流を促進するため、ABLEサロンを継続開催する。

(2) 情報受発信の強化

KPECの運営趣旨と活動及び地域活性化に関する各種情報を地域に伝えることを目的に機関紙の発行及びホームページの運用を行う。

① KPECニュースの発行

KPECの運営及び事業を、KPEC会員及び関連団体に広く広報するために、KPECニュースを発行する。

・発行回数：原則として、1回/年（5月） ・発行部数：2000部程度

② ホームページの運営

専用ホームページの充実を図りKPEC事業活動情報をタイムリーに発信する。

③ メール送信システムの整備

会員企業及び事業関連組織等のメーリングリストの整備を行い、セミナー等事業の円滑な運営に資すると共に、KPECの地域ネットワークの構築を行う。

2) 地域づくりネットワークの推進

(1) 北九州地域経済団体連携フォーラム事業の実施

北九州市内の経済団体による「北九州地域経済団体連携フォーラム(事務局：KPEC)」を編成し、各種の情報の共有と事業運営における連携、協働の環境づくりを行う。

(構成組織)

北九州商工会議所、(公財)北九州活性化協議会、(一社)西日本工業倶楽部、(公財)西日本産業貿易コンベンション協会 (一社)北九州中小企業経営者協会、(一社)北九州青年会議所、(一社)北九州青年経営者会議

① 「世界に広がる北九州の明日を考える講演会」の開催

「世界に広がる北九州の明日を考える講演会」を、経済団体連携フォーラムの共催事業として開催する。

・講師(予定)：三菱重工業(株)社長、宮永俊一氏

② 協力事業の実施

構成団体の組織運営に関する情報交換、相互協力による事業実施及び、協働事業の研究等、地域活性化に向けた実践的な環境づくりを行う。

(2) 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画

ビジターズ・インダストリー創出を目的とした「北九州市にぎわいづくり懇話会」に参し、行政と協働でにぎわいづくり事業の企画、実施を行う。(企画部会長：小嶋理事長)

(3) 地域づくりネットワーク福岡県協議会への参画

「地域づくりネットワーク福岡県協議会」へ参画し、地域活性化施策の研究、調査及び研修を行うと共に、北九州市域の地域づくり団体との橋渡しを行う。

6 北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業

北九州イノベーションギャラリー(KIGS)は、北九州地域の「人材」「技術」「産業遺産」の3つの資産を活用しながら、北九州地域、ひいては日本を支える新たなイノベーションへとつながる(1)人材活用・育成、(2)産業技術の保存継承(技術の知と心の継承)、(3)技術革新(イノベーション)の機会創出を図っていくことを目的としている。

平成27年度は第三期指定管理期間の初年度であり、市及び関連機関との連携を強化し確実に推進すると共に、新たに技能教育事業の拡充に向けた環境づくりを行う。

平成27年度事業計画は以下のとおりである。

1) 教育普及に関する事業の企画、運営

次世代の北九州を支えるイノベーターを育成していくため、若手技術者や技術系大学生、工業高校生等を重点対象とした「ものづくり教育」を推進する。

また、早期工学教育推進強化の視点から、義務教育段階(小中学生)を対象にした「ものづくり教育」の環境づくりを進めると共に、企業技術者や研究者、大学生、工業高校生等の交流の場づくりを推進する。

さらに、北九州マイスター等と連携して、本市で培われた卓越した技能・技術を継承する取り組みを行い、「技能教育」の拡充のための環境づくりを推進する。

(1) 主要コンベンションの開催

① KIGSイノベーションフォーラムの開催

「KIGSイノベーションフォーラム」は、産業界や現代社会における最新の技術動向やイノベーション事例等について関心が高いと思われるテーマを選定し、年1回開催する。

② 地域ものづくり未来フォーラムの開催

「地域のものづくり未来フォーラム」は、地域のものづくりの現状や課題等について、産業界と共に教育関係者や行政等を交え意見交換する集いを新たに企画し実施する。

(2) 各種セミナー、報告会の企画、開催

① 技術革新セミナーの開発、実施

地域の産業界において関心が高いと考えられる技術テーマや製品開発等の技術革新セミナーを開催する。(年2回以上)

② デザインセミナー、デザインフェアの開催

ヒット商品の開発や話題性の高いプロジェクト等に関わるデザイナーや地元で活躍するデザイナーを講師に招いたセミナーデザインセミナーを開催する。(年2回)

また、展示やワークショップ等を集約したデザインフェアを開催する。(年1回)

③ その他の普及講座の企画、開催

産業の歴史や遺産、技能などを扱う市民向けセミナー、見学ツアー、産業映像上映会等を開催すると共に、調査研究報告や出前講座の実施及びインターンシップ受け入れなどの教育、普及事業を行う。

④ 実践的技術実習の実施

工業高校生を対象に、マイスターを活用した技能レベル向上のための実習を実施するとともに、学校へのマイスター派遣などの事業の拡充を進める。

(3) ワークショップの企画、開催

小学生を対象にしたステップアップ式やクラブ要素を取り入れた工作教室を拡充すると共に、工房の各種工作機械や3Dプリンタなどのデジタル工作機械を活用した実践的ワークショップ等を開催する。

(4) 各種イベントの開催

ものづくりの大切さを小学生に体感させる「東田サマースクール」や高校生、大学生が主体となって小中学生に対する理数系教育支援を目的として実施する「世界一行きたい科学広場 in 北九州」、古代たたら製鉄の体験事業「東田たたらプロジェクト」等を継続実施する。また、技術士会や関連の団体などと共催で行うイベントも精力的に開催していく。

(5) 団体向け講習

来館者や利用者の増加を図るため、修学旅行や企業研修等の誘致活動と併せて、ものづくり体験等魅力ある教育プログラムを企画、実施する。

2) 調査研究に関する事業の企画、運営

北九州市における産業技術の保存継承及び今後のイノベーションの推進に関する調査研究事業を行うと共に、人材育成に資するため以下の調査研究に取り組む。

また、調査研究の成果は、北九州市をはじめ国内の企業、学校、一般市民等に公開し、それぞれの事業、教育、自己研鑽等への活用を促していく。調査研究に当たっては、企業、大学、技術士会等の有識者と協業するとともに、国立科学博物館と連携していく。

(1) 北九州ならではの産業技術やデザインの歴史に関する調査研究

テーマ(案):「北九州における発電用高温・高圧弁技術の歴史と発展」(自主研究)

テーマ(案):「北九州における鑄造技術の歴史と発展」(自主研究)

テーマ(案):「マイスターによる技術指導」(委託研究:北九州マイスター倶楽部)

(2) 国内外の様々なイノベーションに関する調査研究

テーマ（案）：「コークスの系統化調査」（共同研究：国立科学博物館）

テーマ（案）：イノベーションマネジメントに関するテーマ化の事前調査（自主研究）

(3) 年表ギャラリー展示更新に必要な調査研究

テーマ：2006～2015年の世界・日本・北九州の主要産業技術史の調査（自主研究）

（既に調査済みの2006年以前の産業分類に基づいて調査）

3) 企画展示に関する事業の企画、運営

企画展示は、当施設の基本テーマである「イノベーション」を中心にその考え方を伝え、その重要性をアピールするのに最適な事業であり、本年は企画展4回（春・秋・冬・春）と特別展や連動展を企画し実施する。

(1) 実施回数及び時期

区分	開催期間	規模	テーマ（仮称）	概要
春	H27. 4. 11 ～6. 21	中	「（仮称）明治日本の産業革命遺産と北九州～製鐵編～」	明治日本の産業革命をリードした八幡製鐵所にスポットをあて、技術の習得や継承をどのようにやり遂げたかを紹介する。
夏	H27. 6. 30 ～9. 27	大	上記企画展を延長（アレンジあり）	*但し、世界文化遺産登録不可能な場合は、子供を対象とした展示等に切り替える。
秋	H27. 10. 10 ～12. 20	中	「（仮称）産業デザインの世界Ⅱ」	関連団体の協力を得て、産業デザインについての理解や興味を深めるエキシビションに仕立てる。
冬	H28. 1. 16 ～3. 27	中	「（仮称）音のふじぎ展」 または巡回展	いろいろな音のメカニズムについて探求・解明すると共に、それらの特質を活かした製品づくりを見てみる。
特別展	ラウンジにて通年実施	小	「北九州の近代化産業遺産展」	①春・夏 「八幡製鐵所から広がる北九州市の近代化産業遺産展」写真パネルで紹介。 ②秋・冬 「北九州市発展基盤となった交通・土木遺産」

4) 映像・図書等収集及び公開に関する業務の企画、運営

当施設のテーマであるイノベーション、産業技術、デザインに関する映像・図書・資料等を収集し、アーカイブの充実を図るとともにライブラリーや情報システムを通じ広く公開し、学習や研究活動を情報面から支援していく。

(1) 図書、雑誌、資料等の収集・公開

① 図書・資料の収集

層の薄いジャンルや企画展に関するものを中心に図書・資料の充実を図り、産業史の資料拡充の一貫として社史などの収集を強化する。

② ライブラリーの運営

利用者アンケートや要望を反映させ、スタッフの質的向上などサービス充実を図り、知名度向上とリピーター拡大につなげる。

(2) 映像の制作・公開

① 映像の製作

岡野バルブなど、これまで取り上げていない地元固有の技術分野にて検討中

② 映像の公開

企画展、各種講演、イベントと連携した解説付きの上映会を開催する。なお、団体客利用時は、その訪問目的に応じたテーマ映像を組み込み視聴いただく。

Ⅲ 法人運營業務

K P E Cの事業運営の基盤としての経営力強化と運営体制の整備を実施する。

1 会員募集と会員サービスの向上

1) 会員募集の強化

昨年度完成した『K P E Cパンフレット』を活用して、賛助会員募集を行い、財務体質改善計画に従って、財務、運営双方の経営体質強化を図る。

2) 会員サービスの向上

会員管理体制の整備により、K P E Cが実施する各種地域活性化事業への案内、及び行政や他団体からの講演会開催等の情報提供の徹底を図り、会員との協働による地域活性化事業の推進体制を構築する。

2 寄付金事業の検討

「公益財団法人」としての税法上優遇措置の強みを活かし、1000人の夢寄金をはじめ、各事業への指定寄付等を含め、K P E Cが公益寄付の受け皿となる寄付金事業の創設についての検討を行う。

3 地域連携促進事業

1) 「スポーツ振興チケット」事業の継続実施

K P E Cの青少年育成事業として企画、制作した「サッカーを通じた青少年育成事業—スポーツ振興チケット」を「スポーツ振興による青少年健全育成実行委員会」を通じて、北九州地域の小中校生・少年サッカーチームおよびその父兄に配布し、地域活性化のシンボルである「ギラヴァンツ北九州」を支援する。

平成27年度は、北九州近隣の京築地区や遠賀・水巻・直方・中間地区へも活動の範囲を広げ、2年後に供用開始予定の『北九州スタジアム』におけるギラヴァンツサポーターの拡大を支援する。

4 組織運営体制の強化

1) 運営体制の整備

(1) 事業運営体制の整備促進

主要事業運営の外部化等の運営体制の改善、強化を図ると共に、各事業のステークホルダーとの分掌体制の整備促進を図る。

(2) 財務体質改善の推進

H26年度をもって、財務体質改善計画に基づいた、一連の業務改革が奏功し、黒字転換となる見通しである。

構築した事業運営フレームの維持改善を行うと共に、賛助会員の募集をさらに強化し、資金運用効率の向上に努め、更なる財務体質改善に向けた経営努力を行う。

(3) 事務局体制の強化

KPEC事業の周知により社会的評価の向上を図り、KPEC事業に対する地域企業の協力環境を醸成すると共に、雇用延長制度等の実施を踏まえ地場企業の人材活用環境の開拓を行う。

5 会議等の実施

定款等に基づき、所定の会議を開催する。

- | | |
|---------------|---------|
| (1) 理事会の開催 | (6月、2月) |
| (2) 評議員会の開催 | (6月、3月) |
| (3) 執行役員会議の開催 | (月1回) |